

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人 柏寿会

福光園ケアハウス老楽園

特定施設入居者生活介護、

介護予防特定施設入居者生活介護

〒021-0902

一関市萩荘字大袋 306番地1

電 話 3 2 - 2 5 1 0

F A X 3 2 - 2 5 1 1

目次.....	1
1. 沿革.....	2
2. 運営方針.....	2
3. 事業実施内容.....	2～7
4. 当年度の目標の反省.....	8
5. 入退居の状況.....	8
6. 通院状況.....	10
7. 介護度の状況.....	11
8. 行事実施状況.....	11～12
9. ボランティア、慰問、実習の受け入れ状況.....	12
10. 研修実施状況.....	13
11. 事故報告.....	13
12. その他.....	14
13. まとめ.....	14

1. 沿革

ケアハウス老楽園は、平成 17 年 3 月 12 日、一関市萩荘大袋に開所しました。

利用定員 20 名、職員 5 名で事業を開始し、同施設内には、老楽園デイサービスセンターが併設されています。平成 22 年 4 月 1 日には、本部の福光園特別養護老人ホームが大袋に移転新築され、二階部分に特定施設入居者生活介護、利用定員 20 名が増床されました。介護付きケアハウスの開所により、ケアハウスの入居者にとっては、住み続けられるという安心感が強まりました。

2. 運営方針

事業の目的

要介護状態となった場合でも、その利用者が可能な限り、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護、その他日常生活の支援、機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持及び利用者の家族の身体的負担の軽減を図ることを目指す。

又、個々の尊厳を重視することで、自分らしさや生きがいの構築をサポートしていく。

3. 事業実施内容

① 食事の提供

共通して

・食形態の変更、補食をすることでバランスのとれた食事を摂って頂く、食べやすいものを多く出してもらう等、栄養士と相談のもと個々に合わせた食事の提供を職員が考え実行することが定着しています。

・玄米ご飯の日を毎週月曜日に設定しています。手作りの焼きおにぎりは好評で、入居者様と職員が協力し作っています。コミュニケーションの場にもなっており、今後も継続して行きたいと思います。

・やわらか食が導入され、見た目もあまり変わらない事から、食形態の変更がスムーズになりました。私ばかり違う…という気持ちも少なく食べて頂くことが出来ました。今後もご本人の状態に合わせてながら厨房と連携を図り対応していきたいと思います。

おらえ

・日常の会話から「これ食べたいよね」「そろそろ〇〇が出始める頃だね」を拾い、食べる楽しみに繋げることが出来ました。

・給食のメニューではなく、自分の好きな物を毎日食べたい方へのアプローチはユニット内だけで支援することが難しく、栄養士と相談しながら支援方法を模索、代替えを

提供することで「満足度」に繋がっています。今は、歯の不具合とご本人様の好みもあり、ミキサー食を提供、毎日完食され栄養面の心配はなくなりました。

・外食だけでなく、買い物に出掛けて好きな物を自分で買って来て食べる機会を持つことが出来ました。

・「みんなと一緒に揃って食べる」と思う方が殆どのため、皆に配膳されるまで待っている、自分より先に違う方に配膳して欲しい等、配膳の順番に気を付け、待たせてしまわないよう工夫しています。

CASA

・干し柿・山菜・焼き芋・トウモロコシ等、皆さんと一緒に作ることで、食べることから季節を感じられる暮らしを意識して支援出来ています。

・入居者様の誕生日の時には、その方が誕生日に何を食べたいか、外食ならどこに行きたいか…等をご本人やご家族に聞いて、希望に沿えるようにしています。ユニットでお祝いの食事を作る時には、ユニットの入居者様達皆で作り、一緒にお祝いをしています。

・看取りの方で食欲が出て来ない方々は、栄養摂取の面と並行し、好きなものを食べて頂くことで「美味しい」という気持ちを復活させたい為、普段はソフト食を食べる方でも、安全性に配慮した上で、天ぷらや果物、タコ焼き、饅頭等、ご本人が「食べたい」と思うものを迅速に対応し食べて頂くことが出来ました。今後もADL低下が懸念される方にも、好きな物を食べられる方法を他部署と連携しながら、考えて行きます。

・「(テレビを観て)おいなりさん、しばらく食べてないね」「はっと良いつちゃなー」「炊き込みご飯が食べたい、油揚げは入れないでね」等、入居者様から出た声を叶える為、急遽の対応が出来ることが以前よりも増えています。スタッフのスキルによって後回しになってしまったケースも少なくない為、今後はどのスタッフが食べたい物を聞いても、それを実現出来るようにすることが課題です。

② 入浴

共通して

・入浴前血圧を測定することで体調に考慮した入浴が定着しています。

・入浴時間を「ゆっくり話せるプライベート空間」と捉え支援に当たっています。皆さん、いつもは話さない本音を話され、心の面でもリフレッシュされているようです。

・女性入居者様の「女性に入れてもらいたい」思い、毎日でも入りたい思いに対応し、勤務の中で工夫しています。

おらえ

・入浴を拒否している方はどうして入りたくないのか、職員が原因に目を向けるようになり、声の掛け方や時間帯、入り方を見直す等、改善策を皆で出し合い、支援方法を工夫しています。

- ・入浴介助に入る職員が固定(勤務で日勤者が固定されている)されたことで良い面は多々ありますが、一方でたまにしか介助に入らない職員が入浴対応をすると、不慣れ、「いつもの入り方」が分からない状況があり、ユニット会議の際に対応の仕方に変更あるか、こだわりのある方は対応の仕方をメモし情報を共有するよう努めた。慣れた職員が良いと入浴予定日より早く入浴される方はいました。今後も課題です。
- ・ハラスメントによるもの、女性対応の入浴で職員が、対応に入れたい入居者様の入浴対応については、他職員が対応を変わって入浴できるようにしています。また、職員の人数が取れない時にご本人の希望で午前中しか入れない方に関しては、事前に入浴日の相談をし、入れない日が続かないよう、不満に繋がらないよう配慮しています。
- ・移動は車椅子の方でも立位が取れる方はリフト浴ではなく、物の配置を工夫し個浴で入れるよう工夫をしています。
- ・本人希望でシャワー浴の入居者様より掛け湯を要望され、浴槽の湯が半分ほどなくなる程の掛け湯をする状況が続き、職員の身体面を考えシャワーのホースを長くし要望に応じています。

CASA

- ・昨年度の課題に、入浴拒否や体調不良により入浴の間隔が空いてしまっていたことを挙げていました。身体清拭や衣類交換等、入浴ができない分こまめに行う等、スタッフ間で声掛けをし合って対応出来るようになっていきます。
- ・入浴対応は日勤者のみでなく早出・遅出も行う機会が増え、どの入居者様の入浴でも、女性対応希望の方以外は、どのスタッフでも対応が出来るようになっていきます。
- ・入浴時の身体状況確認表が上手く活用できていません。今後の使用の仕方について検討することになります。
- ・現在 10 名中 6 名がリフト浴での入浴をしています。リフトだとどうしても肩が出てしまうので、寒い思いをしないように掛け湯をする、バスタオルを掛けた状態で入浴する等、職員でも統一して対応をするようにしています。

生活相談・健康相談

共通して

- ・通院の付添い・送迎に関して、定期通院以外に、ご本人、ご家族の要望により、又健康管理の面から、随時希望の病院への通院送迎をしています。ご家族との通院の場合にも付添いのご希望があれば対応しています。
- ・定期健康診断の結果を通院時に主治医に報告しています。
- ・毎日 2 回の定期検温、入浴前の血圧測定により早期に体調の変化に気づき、通院に繋がっています。また、不調を上手く伝えることが難しい方も多く、普段の表情やしぐさをよく観察し、いつもと違う時には看護師や他職員と相談し、通院等迅速な対応を

心がけています。

- ・担当としての仕事を再確認し、入居者様が安心して生活できるよう努めていきます。新人職員と入居者様の関係作りをフォローしながら各職員も自分の対応を再確認できるよう取り組んでいます。
- ・ご家族様が面会に来園された時には、近況や状態を報告、直接会話することにより、些細な変化も共有できるようにしています。
- ・ハラスメントの対策として、事実をケースに入力し、場合によってはご家族へ電話にて報告をしています。職員間でもフォローし合い、住みやすい環境、働きやすい環境作りに努めています。

おらえ

- ・入居者様の入れ替わりはありましたが、その中で関係性を気づき仲良くされる入居者様もいましたが、歳相応の忘れや、認知症により依存しやすい関係性となり被害的な思考になってしまったときに「警察を呼ばなければ」とお互いに悪い方にすすんでしまうケース、金銭や物のやり取りをしてしまうことがあり、様子の変化に気付き、早期に対応できるよう努めています。
- ・性格的にあわないと思われる方、言動が気に入らない方、認知症の方への理解を得ることが難しい方がおり、人間関係の面で配慮しなければならない場面が多く、会話術が求められ、今後も課題です。ストレスに感じるがあったと思いますが、職員が間に入り声を掛けやすい・話しやすい雰囲気作りを意識し、不満や不安を受け止め今後はどうしていくか考えることができるよう努めています。
- ・ご家族では、キーパーソンとキーパーソンではない方の入居者様への考えや思いに違いがありますが、同じ様に情報を共有できるように努め、今後も課題です。
- ・入居者様より特定の職員に対してのハラスメントがあり、対応に入れなくなった職員がいます。職員は両ユニットで協力しながら対応しその方の生活を支えています。入居者様からの威圧的な場面があった時の対応の仕方を共有し冷静な対応に努めています。

CASA

- ・毎月、ご家族へ、ケース記録と写真入り一筆箋をお送りしています。普段会いに来られないご家族も、写真があると、こんなこともして貰っているのだね、こんなことが出来るのだね…と、入居者様の様子や老楽園での生活が分かり安心するという声を頂いています。

ケース記録は入居者様の支援に関するマイナスな部分の記録もある為、会話の内容や、楽しんだことも伝えられるように心掛けています。今まではほとんど午前中は早出が、午後は遅出が中心となってユニット対応を行っていた為、全体としての様子を把握しやすかったですが、入浴対応が重なったりすると所々の様子を見られないこと

があります。その間は出来る限り対応していたスタッフが入居者様の様子を入力できることが理想です。

・担当職員を中心にしていますが、ユニット職員全員で入居者様の希望や不安をお聞きしながら支援をしています。良くも悪くも、担当がやるべきこと…という意識が以前よりも薄れています。日常の生活を支えるお手伝いはどの職員が行っても問題はありませんが、常に変化しているかもしれない気持ち面や身体面を考慮した支援を、担当が常に考えて対応をしていけるように、気づきを大切に支援することを心がけていきます。

・特定の職員に対しての不満をストレートに話される入居者様への対応について。職員に非が無く、そう思い込んでしまった方の場合の対応に悩んでいます。暮らしている上で何かの不満がありそれを特定の職員に結び付けてしまう場合が多くあります。職員・入居者様双方へのフォローを現在も行っている所です。

・女性対応希望の入居者様が増えています。入浴介助のみではなくトイレ誘導やパット交換、着替え等が完全女性対応の方もいらっしゃる為、両ユニットで協力して対応をしています。

③ 余暇活動の支援

共通して

・季節感を大切に、食・散歩・外出だけでなく、装飾にも力を入れ、四季折々を感じられる工夫をしています。

・入居者様の経歴に合わせ、個々に得意なことを発揮する機会を持って来ましたが、民謡教室ではケアハウス一般型の方・福光園の方にも積極的に声掛けし、気軽に参加できるようにしています。参加者は満足され、次回の開催を心待ちにされています。

・ユニット玄関の鍵を昼間は開放し、入居者様の自由な暮らしを目指しています。ケアハウス一般型と連携を取り、内線にて声を掛け合っています。福光園へは、顔写真入りの紹介用紙を回覧し、見かけたら一報頂く体制を継続し、ご本人の気持ちも尊重しながらなるべく自由な生活を送れるよう心がけています。

おらえ

・外出や行事の際、ご家族へ声を掛けて一緒に行く機会を持つことが出来ました。外出が難しい利用者様は場所をお貸ししてご家族で誕生日会を行い、家族との時間を持つことが出来ました。

・今までは近場へ行くような感覚で遠方へ外出したいと要望される回数が増え、費用面や他入居者様とのバランスを取ることが難しい状況でしたが、入居者様の状態の変化で、遠方を要望されることは少なくなりました。皆と一緒に外出したい、違う日に予定にしてもなんでも人だけ…となることもあり、個別より数人で外出する機会

が多くなりました。

- ・入居される前から民謡、俳句等してきた入居者様が趣味を続けられるよう、得意な事を敬老会で披露して頂いたり、披露の場を設けたり、作品を掲示しています。
- ・トランプや散歩などの余暇活動は、スタッフによっては時間をみつけて行うことが出来ない等、偏りがある為、どのスタッフも出来るようにすることが今後課題です。

CASA

- ・余暇時間をみつけてトランプやピンポン等を行う個別対応が定着しています。歌詞カードの冊子を作り、入居者様達の世代の流行歌が分からない職員でも、入居者様に教えて頂きながら歌の会を行えるようになってきています。こまめに CD で歌を流して口ずさみながらゆったりした時間を過ごして頂く等、ただテレビを観ているだけ…にならないように努めています。
- ・ラジオ体操や、ただ体を動かすストレッチ等、入居者様主導で行うことも増えていきます。「体操しよう」との声で、皆さんと一緒に身体を動かすようにする機会がほぼ毎日あります。
- ・ユニットの飾り作りは皆さんで行い、「良いね、きれいだね」と作った苦労も思い出しながら季節を感じて頂けるようにしています。
- ・昨年同様、外への散歩の機会があまり多く取れませんでした。暑い・寒いも、体感して季節を感じて頂く為にも、外出以外にも散歩の機会を作っていきます。

④ 疾病や災害等、緊急時の対応

- ・身体の悪化や健康状態の対応としては、ナースコールでの対応、看護員の判断による通院、急変時の救急車への連絡と、迅速な対応が来ています。
- ・災害時の緊急対応については、避難訓練を実施し、災害時できるだけ慌てず対応出来るよう備えて行きます。
- ・災害、急変時どちらも慌てず対応出来るよう、こういう時はこう動く等、日々の申し送りの中で想定出来ることを確認し合い、心構えを大切にしていきます。

4. 当年度の目標の反省

重点目標の反省

令和元年度(下期～)の重点目標

・入居者様を中心にご家族・職員が情報を共有し、自分らしい生活の継続を支援します。

・入居者様が自分から自分のことを話して下さる機会があまり無く、【私の本音聞いちゃったノート】を書き始めています。入居者様・ご家族より聞いた、入居する前の入居者様やご家族のこと等を記入しています。職員間で情報を共有することで、「入居されている〇〇さん」ではなく、今まで何をして来たのか、何を考えているのか、ご家族とは今までどういう関係で、今はどう感じているのか…等を知ることが出来てきています。そういったことを知った上で会話をするすることで、内に秘めた要望を聞き出し、支援していけるように、することが今後さらに求められます。

・入居者様の生活について、職員だけで考えるのではなく、ご家族へも相談をした上での支援をするように努めています。

その他

・職員の異動、退職等が続き、少ない人員で入居者様の希望の生活を支える状態が続いています。今年度、園長を始め事務所・看護師・介護が協力し、「自分の領域外」と思わずに支援する意識のもと全職員で入居者様の暮らしをサポートしています。

そのため、職種の差無く、相談をしたり助けてほしいという声を挙げやすくなっています。

5. 入退居の状況

(1) 入退居状況

平成 31 年～令和元年度中の入居者 6 名

平成 31 年～令和元年度中の退居者 7 名

【退居理由】

①死亡退居 5 名 ②入院加療 1 名 ③他施設入所 1 名

令和 2 年度末の利用者 19 名

(2) 月別入退居状況及び充足率

月	月初利用者数	入居	退居	月末利用者数	充足率
4	20	0	0	20	95
5	20	0	0	20	88
6	20	0	0	20	98
7	20	0	0	20	97
8	20	0	0	20	93
9	20	0	1	19	91
10	19	1	0	20	92
11	20	0	1	19	89
12	19	1	0	20	87
1	20	1	3	18	84
2	18	3	1	20	92
3	20	0	1	19	93
計	236	6	7	235	92%

(※充足率は空室・入院・外泊も含める)

(3) 入居前住所別利用者数

[令和2年3月31日現在]

入居前住所	計[名]
一関市	17
宮城県気仙沼市	1
宮城県栗原市	1
計	19

(4) 年齢別・男女別利用者数

[令和2年3月31日現在]

年齢(代)	男性[名]	女性[名]	計[名]
～69	1	1	2
70～79	1	0	1
80～89	1	4	5
90～99	1	10	11
100～	0	0	0
計	4	15	19

(5)平均年齢

〔令和2年3月31日現在〕

	男性	女性	男女
平均年齢	80.8	88.8	平均年齢 87.1
最高年齢	94	95	最高年齢 95
最低年齢	67	68	最低年齢 67

(6)手帳

〔令和2年3月31日現在〕

性別	種	級	肢体	視覚	聴覚	内部	複合	計
男	一種	2級	2	0	0	0	0	2
		3級	1	0	0	0	0	1
女	二種	4級	1	0	0	0	0	1
計			4	0	0	0	0	4

6. 入院・通院の状況

ケアハウス職員が病院に送迎した回数(送迎で1カウントする)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通院	46	41	44	52	36	49	39	39	43	49	41	37	516
入院	2	2	2	2	2	4	4	4	6	6	1	1	36
訪診	2	1	2	1	2	1	4	2	8	5	3	3	34
訪看					2	6							8

前年度通院回数 391 回、(今年度は毎週通院する方が居た為増)

7. 介護度の状況

[令和2年3月31日現在]

	男	女	計
自立	0	0	0
要支援1	0	0	0
要支援2	0	0	0
介護度1	0	4	4
介護度2	2	3	9
介護度3	1	4	3
介護度4	0	3	3
介護度5	1	1	2
計	4	15	20
平均介護度	3	2.6	2.7

8. 行事の実施状況

月	CASA	おらえ	個人活動
4	6日 ポラーノおやつドライブ 20日 桜ドライブ 21日 フラワーフェスティバル 22日 女子会(スイーツ) 24日 北上展勝地見物	18・19・23日 桜ドライブ 21日 フラワーフェスティバル 24日 北上展勝地見物	民謡の会 外出 書道 活け花 レクリエーション
5	5日 端午の節句・ヨモギ餅つき 12日 母の日会	5日 端午の節句・よもぎ餅作り 11日 母の日会 13日 筍採り 21日 焼きそば作り 28日 お好み焼会	買い物 外食 美容院 食事・おやつ
6	15日 父の日(餃子パーティー) 21日 気仙沼大橋ドライブ	15日 父の日会 21日 気仙沼大橋ドライブ	作り 誕生会
7	13日 老楽園夏まつり	13日 老楽園夏まつり 29日 美味しいものを食べに行こう	
8	7日 ラーメン作り 22日 花火大会(手持ち花火)	7日 ラーメン作り 22日 花火大会(手持ち花火)	
9	13日 お月見会 15日 敬老会	15日 敬老会	

	22日 豆腐祭り参加		民謡の会 外出 書道 活け花 レクリエーション 買い物 外食 美容院 食事・おやつ 作り 誕生会
10	8日 秋味昼食会 29日～干し柿づくり	8日 秋味昼食会 23・30日 紅葉ドライブ	
11	4日 紅葉見物 24日 カラオケ大会	1・2・11日 紅葉ドライブ 24日 カラオケ大会	
12	4日 誕生日外食(庄や) 18日 忘年会(古戦場) 20日 クリスマス会 27日 忘年会・餅つき	5日 誕生日外出 13日 回転寿司ドライブ 18日 忘年会(古戦場) 20日 クリスマス会 27日 餅つき	
1	1日 新年の会 5日 書初め大会	1日 新年の会	
2	3日 節分 14日 バレンタイン	3日 節分 14日 バレンタイン	
3	3日 ひな祭り 7・18日 ばっけ採り・ばっけ料理 11日 鴨南蛮蕎麦の会	3日 ひな祭り会 11日 鴨南蛮蕎麦の会 14日 ホワイトデー 25日 送別会	

※その他希望に添った外出を行っています。

9. ボランティア・慰問・実習の受け入れ状況

ボランティア

頻度	ボランティア(団体名)名	内容
月2回	SY様	レクリエーション
月1回	SS様	民謡の会
月1回	OM様	大正琴と歌の会
月1回	理容 Hair FREE	理容

実習・体験学習

期間	団体(個人)名	内容
7/1～5	一関萩荘中学校	体験学習
9/11	東北福祉大から実習生1名	体験学習
12/2・3・4	一関市役所新採用職員研修 各2名	介護体験

10. 研修実施状況

(1) 施設内研修

月	研修テーマ
4月12日	接遇マナー・プライバシーの保護・法令遵守・マニュアル検討
5月14日	身体拘束禁止・マニュアル検討 事故の発生予防・再発防止・マニュアル検討
6月11日	感染症対策・食中毒・マニュアル検討 ケア向上勉強会「緊急時の対応・処置について」
8月7日	機能訓練・マニュアル検討
9月9日	非常災害時対応・マニュアル検討 排泄介助ケア・マニュアル検討
10月3日	感染症対策・インフルエンザ・マニュアル検討
12月11日	虐待防止・身体拘束禁止・アンガーマネジメント 認知症ケア・介護予防・マニュアル検討
1月10日	ケア向上勉強会「生活支援について」
2月19日	終末期ケア・マニュアル検討
3月11日	食事介助ケア・マニュアル検討

(2) 施設外研修

- ・7/3 元気ネットワーク 第1回研修会 寿光荘 4名
- ・9/22～23 元気ネットワーク 第2回研修会 福光園 各3名

11. 事故等報告

転倒 転落	転倒 骨折	誤嚥	予薬	離設	外傷	熱傷	自傷	その他	ひやり はっと	計
87	4	1	13	2	46	2	1	6	17	179

前年度事故合計 182 件

12. その他

防災計画

避難訓練 令和元年 7 月 24 日、令和元年 9 月 11 日

総合避難訓練 令和元年 10 月 8 日

…反省…福光園と合同で避難訓練を行いました。特定は、二階にある構造上震災・火災で孤立する可能性が考えられるので、普段から福光園・老楽園との協力体制を整えたいと思います。また、河川の氾濫を想定した高台への避難訓練も実施、避難場所は老楽園特定施設で、エレベーターを使用しています。実際の災害発生時には、慌てず対応出来るよう備えて行きます。

13. まとめ

特定型は、平成 31 年～令和元度の入居者は 6 名、退居者は 7 名でした。退居理由としては、死亡退居 5 名、入院加療が 1 名、他施設入所へ 1 名でした。

特定施設では、現在、要介護 1～要介護 5 までの方が生活されています。平均介護度は 2.7(前年 2.6)です。今年度の上期は入退居がほぼなく、入退院の日数も抑えられ比較的安定していました、上期の充足率 94%でした下期は 90%と低下しています。下期は入居希望者が少なく入居の対応に苦慮しました。現在もこの傾向は続いております。入居者間では認知症の進行により他入居者様との関係の構築が困難、要望の多い方の対応には苦慮しています。その為、その方を知りご家族とも情報共有をして支援に繋げております。

また、施設全体で入居者様の暮らしをサポート出来るよう、施設長をはじめ事務所・看護・介護が協力し、見守り・希望に合わせた外出・緊急通院等がスムーズに行えています。

看護員は依然 1 名体制の為、医療的な部分の不足が、引き続き課題となります。今後も、入居者様の心に寄り添い喜んで頂けるよう職員一同努めて行きたいと思っております。